

英米文化学会会報

第 62 号

平成 17 年 2 月 15 日版



Home Sweet Home

目次

英米文化学会第 116 回例会および総会開催のお知らせ
例会発表レジュメ
分科会からのお知らせ
事務局からのお知らせ **重要！投稿規定などが改訂されました**

英米文化学会 第 116 回例会および総会開催のお知らせ

表記の会を下記の要領で開催します。万障お繰り合わせの上ぜひご出席ください。

日時：平成 17 年 3 月 12 日(土) 午後 3 時～午後 6 時 午後 2 時 30 分受付開始

場所：日本大学歯学部第 3 号館 2 階第 5 講堂、第 6 講堂 (JR お茶の水駅下車 ニコライ堂隣)

当日会費：100 円

総会：午後 5 時 30 分～6 時(例会後引き続いて総会を開きます)

懇親会：午後 6 時～8 時 30 分

会場：カフェ ポンヌフ(例会会場隣 中央大学記念会館一階)

会費：3000 円

懇親会のみへの参加も歓迎いたします。

< 研究発表 >

1. 認知言語学におけるカテゴリー化

プロトタイプとフレームの関係

(15:10 -- 15:30)

2. カテゴリー化と語彙項目の習得
発表 佐藤順子 (拓殖大学)
司会 亀山 孝(共愛学園高等学校)
(15:30 16:00)

発表 松谷明美 (横浜市立大学)
司会 亀山 孝 (愛学園高等学校)

3. バークリー哲学再考

存在と知覚の合一が意味するもの (16:10 16:50)

発表 豎谷宏一(拓殖大学)
司会 小林正弘 (千葉工業大学)

小休止(16:50 17:00)

4. シェイクスピアとイブセンの女性観
社会へのメッセージ

(16:55 17:30)

発表 榊原春水 (清泉女子大学)
司会 石塚倫子 (東京家政大学)

研究発表レジュメ

1. 認知言語学におけるカテゴリー化

プロトタイプとフレームの関係

佐藤順子(拓殖大学)

私たちには日常の出来事や新しく出会った物を理解するとき、類似性や一般性を基にそれらをグループに分類し、記憶する能力が備わっている。このグループ化する認識上のプロセスを「カテゴリー化」という。認知言語学ではカテゴリーにおける代表的な成員をプロトタイプ、またプロトタイプではないがプロトタイプに類似した成員をプロトタイプ効果と呼び、これらは言語表現全般に現れるといわれる。一般にカテゴリー化はプロトタイプとフレームがうまくかみ合って成立するが、逆にプロトタイプとフレームの調和を欠いたカテゴリー化は言語使用上、理解上、奇妙な結果をもたらす。本発表では Barry Cole の “Reported Missing” という詩のコミカルさの分析を通して、英語でのカテゴリー化を考える際に重要視しなければならないプロトタイプとプロトタイプ効果、そしてフレームの関係を考察する。

2. カテゴリー化と語彙項目の習得

松谷明美 (横浜市立大学)

私たちは、様々な場面との出会いや新しい経験を通して、物事のカテゴリー化を行う。この過程は、取り巻く環境に適応しようとする人間の認知の現れであり、「語彙項目」や「文法・構文」と言うような言語表現にも及んでいる。例えば、私たちは新しく習得した語彙項目が、異なる場面や状況で用いられたとき、その語彙項目が複数の意味を持つという多義性の問題を、認知過程の一つである「放射状カテゴリー」のリンクに従い、解決する。本発表では、動詞に品詞を限定し、どのような場面・状況で、いかに意味の特定へとたどり着くかに関して、子供の被験者に行った実験を中心とするいくつかのデータを分析・考察し、子供の年齢が高いほど(つまり、成長の度合いが高いほど) 語彙項目の習得におけるカテゴリー化がよりの確に行われることを示す。

3. バークリー哲学再考

存在と知覚の合一が意味するもの

豎谷宏一 (拓殖大学)

アイルランドの哲学者であるジョージ・バークリー (George Berkeley; 1685-1753) の思想は、その独特な内容ゆえに、彼の死後100年以上もの間、十分に理解されることがないまま

軽視されてきた。こうした状況は、過去2度に渡る著作集の出版を通じて大きく変わり、これまでにその解釈と評価をめぐって様々な議論がなされてきている。このような中、今あらためてバークリーを読み、その思想が持つ今日的意義を考えてみたい。本発表では、彼の主著である『人知原理論』(1710)を中心に、バークリー哲学を、その主要概念である「観念」と「存在」の意味を明らかにしながら概観し、彼の思想の中心をなす直接経験の重視と客観主義批判は、今もなお重要な意味を持っていることを主張する。そしてさらに、彼の哲学に対して従来与えられてきた神中心的解釈に代わって、人間中心的解釈の可能性を探る。

4.シェイクスピアとイブセンの女性観 社会へのメッセージ

榊原春水(清泉女子大学)

シェイクスピアとイブセンの作品には、現代の女性も大いに共鳴できるであろう、時代の先端を行くような自立した逞しい女性や、男性に劣らぬ知的で行動的な女性が多く登場する。こうした女性たちや、彼女らの描かれかたを比べてみると、シェイクスピアとイブセンの間には、時代の壁を超えて、共通した女性観、価値観がみられる。シェイクスピアのエリザベス調ルネサンス時代と、イブセンの19世紀リアリズム時代とでは、宗教、イデオロギー、文化、考え方の異なる社会である。その一方で、それぞれの時代は、男性中心の伝統的社会を批判しようとする、女性に対する新たな考えが生じた社会であった。

この二人の女性観について、男装した女性が男性を裁くシェイクスピアの『ベニスの商人』とイブセンの“men's law”と“women's law”を問うた『人形の家』とを、またヒロインが巧みに男性を操ろうとする『マクベス』と、『ヘッダ・ガーブラー』を比較、考察する。

分科会からのお知らせ

分科会活動の現況をご報告いたします。

分科会担当理事 須田理恵

分科会名：「動物と文化」代表：山根正弘

活動状況：ただ今論文査読中で、来年度中には出版予定です。

分科会会員氏名

小林 弘、大東俊一、伊藤由紀子(旧姓：横田)、佐久田英子、関口敬二、橋本順光
松下晴彦、森本峰子、山内 圭、山根正弘

分科会名：「応用言語学」代表：亀山孝

活動状況：「認知言語学」というタイトルで三ヶ月に一度、勉強会をしているところで、来年までには出版したいと思っています。

分科会会員氏名

石井由美、石川孝子、亀山孝、平川敦子、佐藤順子、松谷明美

分科会名：「ヴィクトリア朝研究」代表：塚田英博

活動状況：執筆内容の概要を各会員に依頼し、代表者まで送信してもらい、概要を検討。また各会員が自らの論考に独自性を盛り込んでもらうために、各会員に会員全員の執筆内容の概要を送信。

分科会会員氏名

川口淑子、丹羽正子、橋本順光、塚田英博、大東俊一、松原典子、間山 伸、閑田朋子、木内 泉、福西由実子、門野 泉、岡田 桂、渡辺 浩、赤瀬理穂

追悼

鈴木正彦先生を悼む

英米文化学会会長 高取 清

鈴木正彦先生が去る一月十日に心不全のため突然永眠なさいました。ここに謹んでお悔やみ申し上げます。顧みますと先生が英米文化学会にお入りになって十数年になりましたが、その間学会のためにたいへんご尽力なさり、現在では中心的な会員としてご活躍されておりました。学会といたしましても、先生のような有為な人材を失ったことはまことに痛恨の極みでございます。つい数ヶ月前に先生と親しくお話しする機会がありました。その折に、誠実でやさしい先生のお気持ちに触れて、今後大いに期待している旨をお話したばかりでした。これは私だけでなく、学会の皆様すべての思いと推察いたします。ご逝去なされる直前まで、『ヴィクトリア朝研究』と『動物と文化』の分科会の中心的メンバーとしてご活躍なされておりました。私どもは先生のご意志を継いで、先生のごこれまでのご努力にお答えできるよう力を尽くすことをお誓い申し上げます。これから大学教師としても、学会の主要メンバーとしてもますますご活躍なされる時にその思いを絶たれたことはさぞかしお心残りのことと存じます。どうかお心やすらかに休みくださるよう会員一同と共に心よりお祈り申し上げます。

合掌

事務局からのお知らせ

英米文化学会出版規定ができました。この規定は、『英米文化』投稿規定、分科会出版規定ならびに特別出版規定、電子出版 ElectroSES 出版規定から構成されていて、従前は、独立していた学会での様々な出版形式を統合する規定としました。『英米文化』投稿規定は2月2日の理事会決定により当日から施行されます（投稿料値下げとなりました）また、電子出版 ElectroSES 出版規定が制定され、学会ホームページ上での、情報公開への途が開けました。この会報と同送されておりますので、必ずお読みください。

会員の動き

【新入会員】

省略

【住所変更】

省略

【退会者】

省略

英米文化学会会報 第62号

編集/発行：英米文化学会

編集責任者：石山伊佐夫

〒224-0028 横浜市都筑区大榎西 3-3-1001

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

問い合わせ先 英米文化学会事務局 佐藤治夫 03-3219-8160 ファックス 03-5204-8787

E-mail: HaruoSato@SES-online.jp

学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>